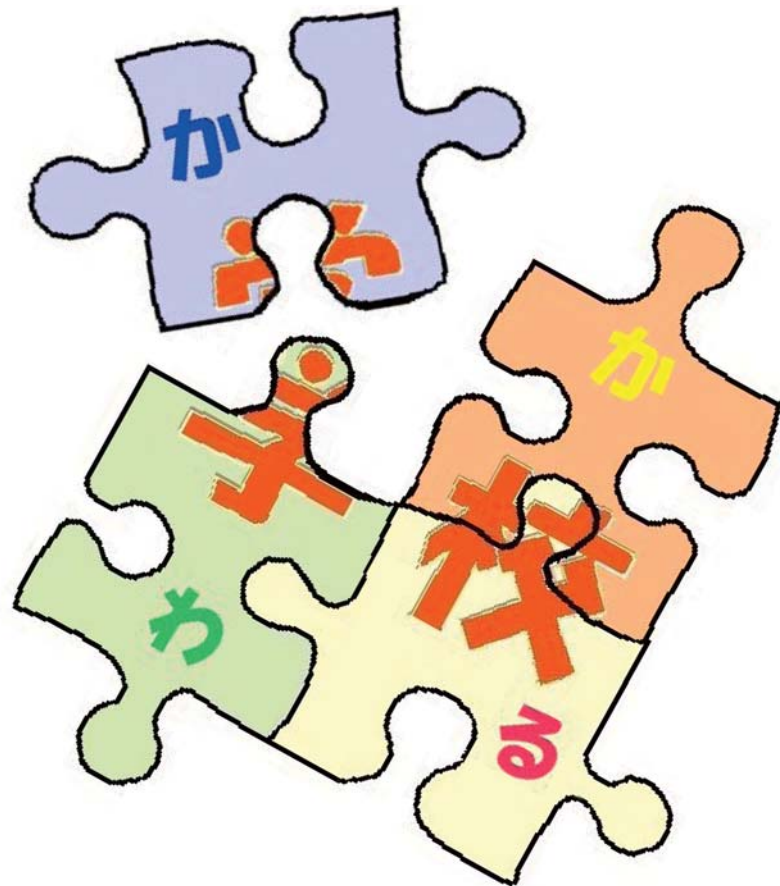


学校関係者評価をすすめるために

— 学校にかかわる、学校がわかる、学校がかわる —



兵庫県教育委員会

1 これからの学校評価

平成19年6月に学校教育法が一部改正され、学校評価に関する規定が新たに設けられました。各学校では、保護者や地域の方々の協力を得て学校関係者評価を実施するなど、学校評価の取り組みを一層充実し、学校運営の改善と発展に努めていきます。

学校運営のサイクルー計画と評価

- 各学校は、「めざす学校像」や「めざす子ども像」を掲げ、中期的（3年～6年程度）な目標や年度ごとの重点目標を定め、それを達成するための具体的な取り組み内容を決定し指導計画を立てて、教育活動を行っています。
- 学校では、年度末に1年間の取り組みを振り返り、年度のはじめに立てた重点目標がどれだけ達成できたか、あるいは、取り組みの内容が適切であったかといったことについて、教職員による自己評価を行ってきました。

学校評価のねらい—学校の改善と開かれた学校づくり—

- 学校評価の取り組みを通して、教職員全員が教育活動その他の学校運営の成果や課題を共有し、協力して教育活動を行うことによって、組織の活性化や学校運営の継続的な改善を図ることができます。
- また、学校評価の結果の公表などを通して、保護者、地域の人々から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりが一層進むことが期待されます。
- 教育委員会は、学校評価の結果を踏まえて、各学校の改善への取り組みの支援に努めます。

学校関係者評価—学校自己評価を踏まえた評価—

- 学校関係者評価は、学校自己評価の結果等について評価することによって、
 - ・学校自己評価の客観性や透明性を高めること、
 - ・学校・家庭・地域が学校の現状や課題について共通理解を持って、その連携協力により学校運営の改善に当たること、をめざすものです。
- そのためには、学校関係者評価を、学校・家庭・地域を結ぶ「コミュニケーション・ツール」として活用し、学校が十分な情報提供や学校の公開を行うとともに、学校関係者評価委員が積極的に意見を述べるなど、主体的・能動的な評価活動が重要です。

学校関係者評価委員会

- 学校は、学校関係者評価の実施に当たって、保護者や学校評議員、地域の人々など、その学校と関係のある人々によって構成される委員会を設置します。
- 学校関係者評価委員は、児童生徒に関する個人情報の保護や守秘義務に関する責任を負っています。


2 学校評価の進め方

ステップ1(Plan 計画)


学校は、前年度の学校評価の結果等を踏まえて課題を明らかにし、その年度の重点目標等を立て、その達成に向けた具体的な取り組みなどを評価項目として設定します。

学校教育目標等の設定

「**学校教育目標**」：学校がめざす子ども像や学校像を簡潔に表現したもので、その学校の関係者にとっては、スローガンのような意味合いを持っています。

 学校の教育目標を確認しましょう。

「**年度の重点目標・重点的な取り組み**」：学校では、学校教育目標の実現をめざして、中期（3年～6年程度）及び年度ごとの重点目標や方針を立てて、教育活動を行います。

 今年度の重点目標等を確認しましょう。

評価項目等の設定

評価項目の具体化・重点化：学校には、児童生徒の状況や地域の実態によりそれぞれの課題があり、また、魅力ある学校にするために特色ある取り組みを進めています。学校評価では、教育活動全体についてチェックするのではなく、そうした課題や特色ある取り組みに重点化した具体的な評価項目を設定し、評価を行います。

学校評価の実施計画の決定

学校関係者評価委員会の回数や開催時期、アンケートの対象や実施時期、評価結果の公表の方法や時期など、1年間の学校評価の実施計画を決定します。

学校関係者評価委員会(1)

学校関係者評価委員は、学校から、年度の重点目標や評価項目など、学校評価にかかわることがらについての説明を受け、学校の教育活動等を観察し評価する視点を持ちます。

ステップ2(Do 実践)

学校は、年度の重点目標や方針を踏まえて教育活動を展開し、取り組みの状況等について積極的に情報を提供します。

教育活動の展開

学校は、すべての教職員が年度の重点目標や方針を共有し組織的に教育活動に取り組むとともに、年間を通じて継続的な情報・資料の収集・整理に努めます。

学校関係者評価委員会(2)

学校関係者評価委員は、学校行事やオープンスクールなどに積極的に参加し、学校の教育活動の観察や教職員との意見交換などを通して、学校の状況について理解を深めます。

また、年度途中で中間評価が実施される場合には、それを通して学校の取り組みや学校評価への理解を一層深めます。

ステップ3(Check1 学校自己評価)

学校は、教職員へのアンケートや聞き取り、児童生徒や保護者、学校支援ボランティアやオープンスクールへの参加者など地域の方々へのアンケートの結果などを踏まえて学校自己評価を実施します。

アンケートの実施

アンケートには、学校行事等に関するもの、日常の教育活動に関するもの、児童生徒による授業評価などがあります。

学校は、年度当初に設定した評価項目に沿ってアンケートのねらいを明確にし内容を精選するとともに、学校関係者評価委員の意見も聞きながら、よりわかりやすく答えやすい設問を工夫します。

アンケート結果を活用した学校自己評価

アンケートの集計結果を資料として活用し、目標の達成状況や取り組みの状況を評価します。

ステップ4(Check2 学校関係者評価)

学校は、自己評価の結果について学校関係者評価委員会で説明し、学校関係者評価委員は、学校の自己評価結果が適切かどうか等について評価します。

学校自己評価結果の説明


学校は、自己評価の根拠となるアンケート結果などのデータを示しながら、自己評価結果について説明します。

 疑問に思う点について、学校に補足説明や判断の材料となる資料提供を求めましょう。

学校関係者評価の実施

学校関係者評価では、具体的に次のようなことごとについて評価します。

- ・自己評価の結果
- ・自己評価の実施方法
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策 など

 評価に加えて、改善に向けた意見も盛り込みましょう。

学校関係者評価委員会(3)

学校関係者評価委員は、自己評価結果についての学校の説明を踏まえ、教育活動の観察等をもとに学校自己評価の結果について評価し、委員会としての意見をとりまとめます。

ステップ5(Action 改善)

学校は、学校自己評価と学校関係者評価の結果を、広く保護者や地域の人々に公表するとともに、次年度の重点目標や経営方針に反映します。

学校評価の結果の公表

学校は、学校自己評価と学校関係者評価の結果を学校便りや学校のホームページに掲載し、広く保護者や地域の人々に公表します。

学校評価の結果の教育委員会への報告

学校は、学校自己評価と学校関係者評価の結果を報告書にとりまとめ、教育委員会に報告します。

報告書のイメージ(例)

報告書の作成過程

学校が、「1」「2」「3」をとりまとめて学校関係者評価委員会で説明

学校関係者評価委員会は、評価の結果を、「4」「5」「6」に簡潔にとりまとめる

学校は、学校関係者評価の結果を踏まえて、報告書を作成

公表・報告

〇〇市立〇〇小学校

(学校関係者評価部分)

1 中期的な学校運営の目標・方針

- 基礎・基本を確実に定着させ、「確かな学力」を身につけさせる。
- 集団の中で相手のことを思いやり、責任ある行動がとれるようにする。

「5 評価項目ごとの学校関係者評価」を総合した評価をとりまとめます。

2 年度の重点目標

- 授業と家庭学習のつながりを明確にし、学習習慣の基本を身に付けさせる。
- 学校行事や学級活動の中で、子どもたちが協力して取り組んだ達成感を味わわせる。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

児童、保護者を対象としたアンケートを年2回、オープンスクールには地域住民参加の行事を設定しアンケートを実施しており、資料収集は十分行われている。

学校自己評価が、根拠となるデータ等に基づいて適切に実施されているかどうかについて評価します。

5 総合的な学校関係者評価

学校・家庭・地域が協力して挨拶運動に取り組んだことにより、子どもたちは学校内はもちろん登下校時にも学校安全ボランティアの人に大きな声で挨拶をするようになってきた。運動会や学習発表会でも、子どもたちがこれまで以上に、大きな声で自信を持って発表したり、行動したりしている。挨拶運動をきっかけに、子どもたちの意欲が高まってきているのがわかる。授業中のようすにも活気が感じられ、「今日のふりかえり」の取り組み状況もだんだん良くなってきており、学習に対する意欲が高まってきている。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業を活用して、一人一人の子どもの疑問に丁寧に応える指導を行う。 ・授業の中で子どもたちがお互いに教えあう場面を設ける。 ・復習課題(「今日のふりかえり」)を計画的に課し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・「ノー会議デー」を設定し、個別指導の時間を確保する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業で、子どもたちの疑問を取り上げて丁寧に説明する指導を繰り返すことによって、自分から手を上げて質問する子どもが増えてきた。さらに、分からないところを教えあうことで、相互に学ぶ姿勢を高めあう雰囲気が生まれている。
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身がよりよい学級づくりに必要な役割を考え、協力して活動するよう指導する。 ・自分の行動を振り返り、自己評価する機会を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、アンケートの集計結果(※)や様々なデータ、記録等を踏まえて、自己評価を行い、その結果と改善方策を簡潔にとりまとめます。 ・学校は、学校関係者評価の結果を踏まえて、改善方策を見直すなど改めて検討し、報告書を作成します。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価	
・授業で、分からないところを恥ずかしながら質問できる雰囲気が定着していることは高く評価できる。	
・授業で学習したことを、「今日のふりかえり」を使って復習するというつながりが子どもたちにも定着してきていることがアンケート結果に現れている。	

学校関係者評価委員会は、自己評価の結果及び改善方策についての評価を簡潔にとりまとめ、それを基に学校が報告書を作成します。

(※) アンケートの集計結果

教職員アンケート

A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない

No.	設 問	A	B	C	D
1	授業のはじめに「学習のめあて」を明示しているか。	20	2	1	0
2	「今日のふりかえり」を計画的に課しているか。	17	4	2	0
3	「今日のふりかえり」の学習状況を把握し、個別指導を行っているか。	13	7	3	0
4					
5					
6					

- ・アンケートを対象別に整理すると、教職員アンケート、児童生徒アンケート、保護者アンケート、地域住民アンケートなどが考えられます。
- ・同一の評価項目について、複数の対象にアンケートを実施することで、多面的なデータを得ることができます。
- ・アンケートは設問を精選し、わかりやすい表現を工夫します。

児童アンケート

A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない

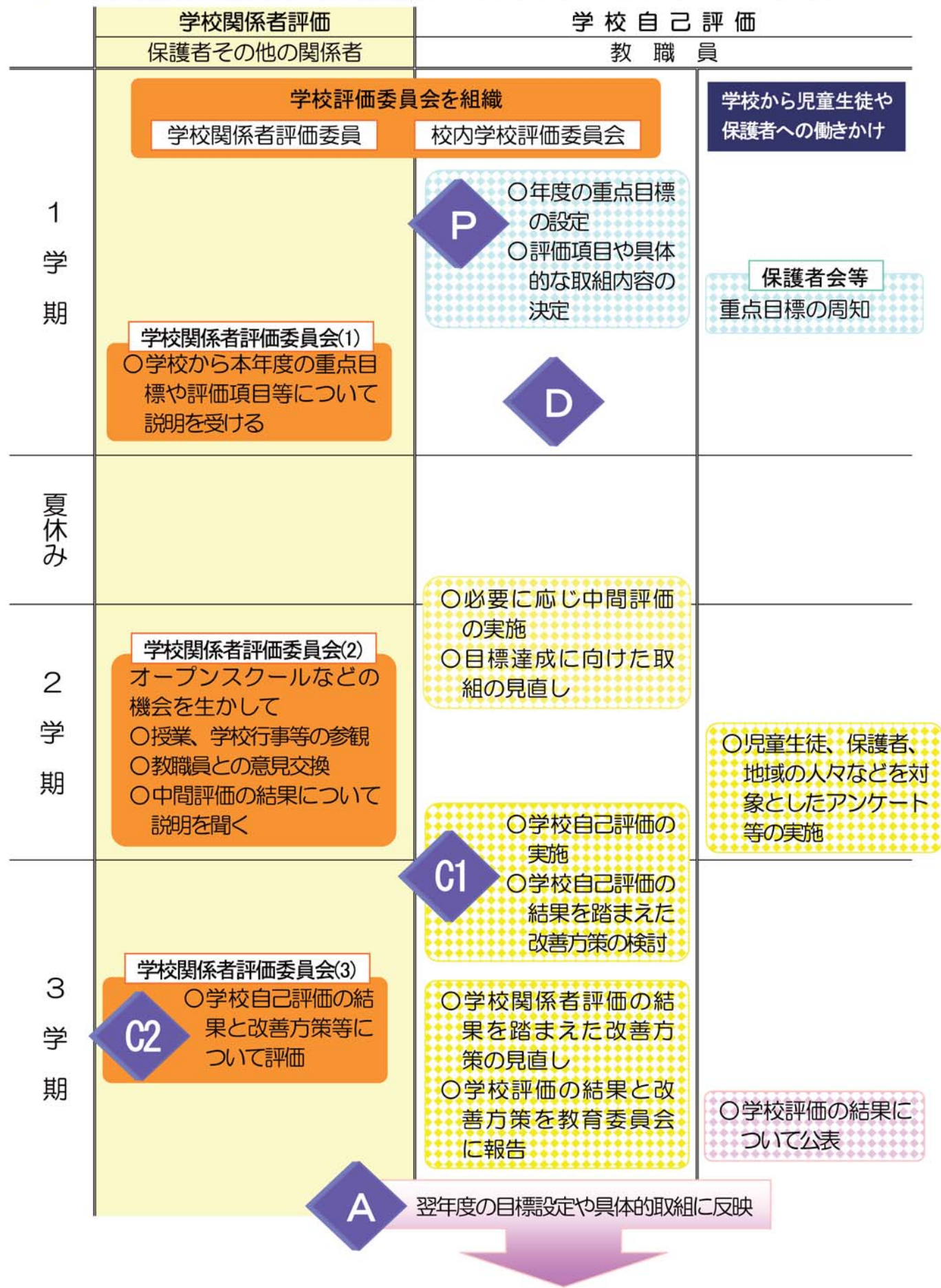
No.	設 問	A	B	C	D
1	授業中にわからないことを質問していますか。	103	173	76	32
2	わからなかったり、まちがったりした問題が、できるようになりましたか。	154	127	84	19
3	毎日、「今日のふりかえり」を使って、習ったことをおさらいしていますか。	171	142	56	15

保護者アンケート

A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない

No.	設 問	A	B	C	D
1	授業がわかりやすいと言っていますか。	67	95	45	27
2	宿題は毎日やっていますか。	78	105	33	18
3					

3 学校自己評価・学校関係者評価の進め方のイメージ例



学校評価Q & A



教育の専門的なことはよくわからないのだが、評価委員が務まるかなあ。



学校関係者評価委員会で、どんなことについて意見を言えばいいのか、見当もつかないわ。

学校関係者評価は、保護者や地域の方々など、学校と何らかの関係のある方による評価です。学校の教職員とは違った視点からの評価をお願いするもので、教育の専門的な知識が求められるものではありません。学校に関する情報や学校評価の基本的なことからについては、学校関係者評価委員会などでご説明します。

学校関係者評価委員会では、学校自己評価の結果や、アンケート結果などについて説明します。学校全体の取り組みや子どもたちの状況について、各委員が日ごろお感じになっていることなどについてご発言いただきながら、協議を深めていきます。
学校関係者評価委員会は合議制ですので、最終的には委員会としての評価をとりまとめていただくこととなります。



評価委員として、学校の教育活動を参観する機会はあるのですか。

学校関係者評価では、他の学校と比べてこの学校はどうかといった判断が求められるのですか。

学校では、運動会や文化祭を公開したり、教育活動のありのままを公開するオープン・スクールを実施しています。こうした機会に、子どもたちの活動を見たり、教職員との意見交換をしたりするなど、学校の教育活動について理解を深めていただけるよう努めていきます。

学校評価は、各学校が学校の実態や子どもたちの状況を踏まえて重点目標や取り組み内容を設定し、その達成状況や取り組み状況を評価するもので、他校との比較を目的とするものではありません。
このため、たとえば、全国学力・学習状況調査の結果などを学校評価の資料としてそのまま用いることは適切ではないと考えています。

※ この資料は、平成18年度、19年度に、三木市において実施した文部科学省委託の「学校評価システム構築事業」の成果を踏まえ、兵庫県の公立学校において学校関係者評価を推進するための資料として作成したものです。